

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No383
(次期学習指導要領改訂審議の経過)

総合探究の「ミニ探究ユニット」「探究を教育課程の支柱的概念へ」、総則評価部会の「自己調整学習・方略」の導入

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会より研究委託を受けて実施されています。
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

生活・総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ

情報活用能力を基盤として総合的な学習の質を高める

『論点整理』 (2025年9月25日)

幼児教育

小学校

中学校

高等学校

(1) 総合的な学習の時間に情報活用能力を育む領域を付加すべき。その際、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、探究の特質が十分に発揮されるよう留意すべき

(2) 探究の質の向上及び学校の負担軽減を図るために、実践の蓄積を可視化する形で、裁量性を維持しつつ、教員や児童・生徒が参照できる参考資料を作成すべき

(3) 中学校及び高等学校での実践の蓄積や、新たな枠組みの全体像を踏まえ、「目標」等の示し方を検討すべき。その際、小中学校での名称についても検討すべき

自発的な活動としての遊びを通しての遊びを通した学び

生活科
※具体的な活動や体験を通じた学び



総合的な学習の時間

情報・技術科
(仮称)

総合的な探究の時間
※自己の在り方生き方と一緒に不可分な課題に取り組む

情報科
※小中の系統性を踏まえて情報科の内容を充実する方向で検討

各教科等

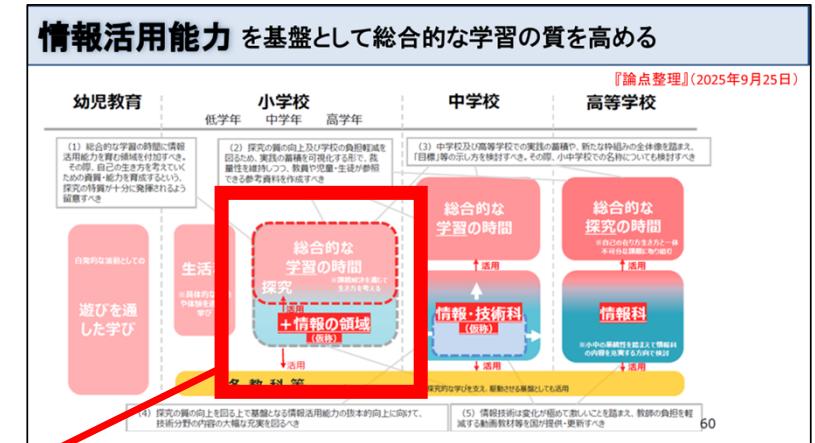
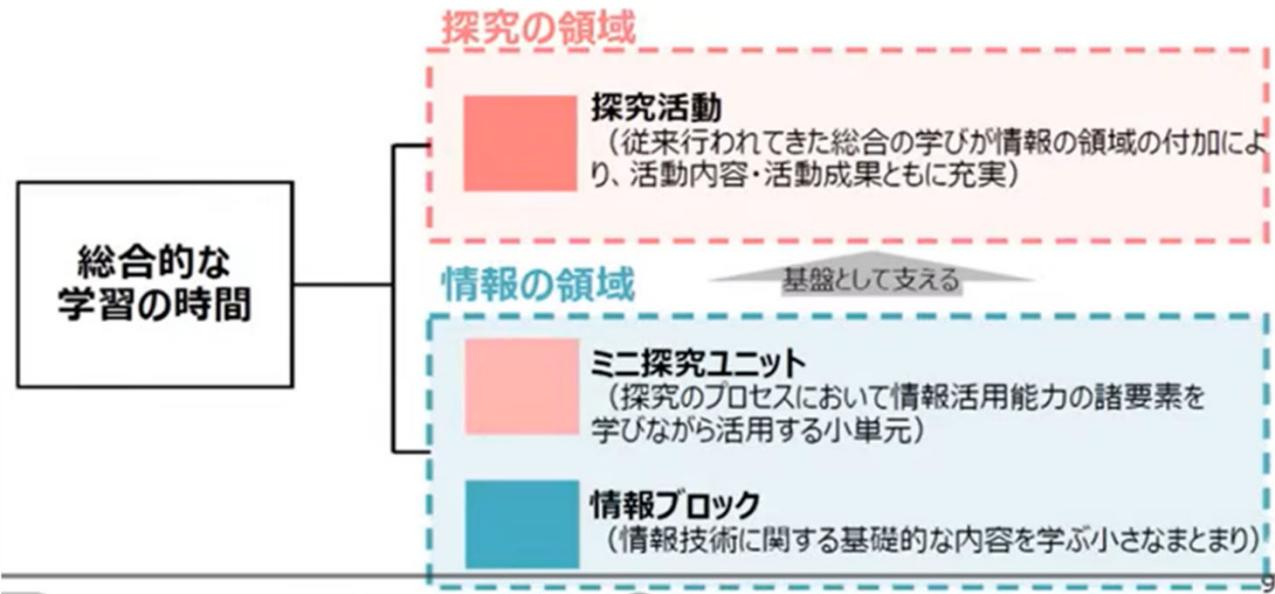
※育んだ情報活用能力を各教科での探究的な学びを支え、駆動させる基盤としても活用

(4) 探究の質の向上を図る上で基盤となる情報活用能力の抜本的向上に向けて、技術分野の内容の大幅な充実を図るべき

(5) 情報技術は変化が極めて激しいことを踏まえ、教師の負担を軽減する動画教材等を国が提供・更新すべき

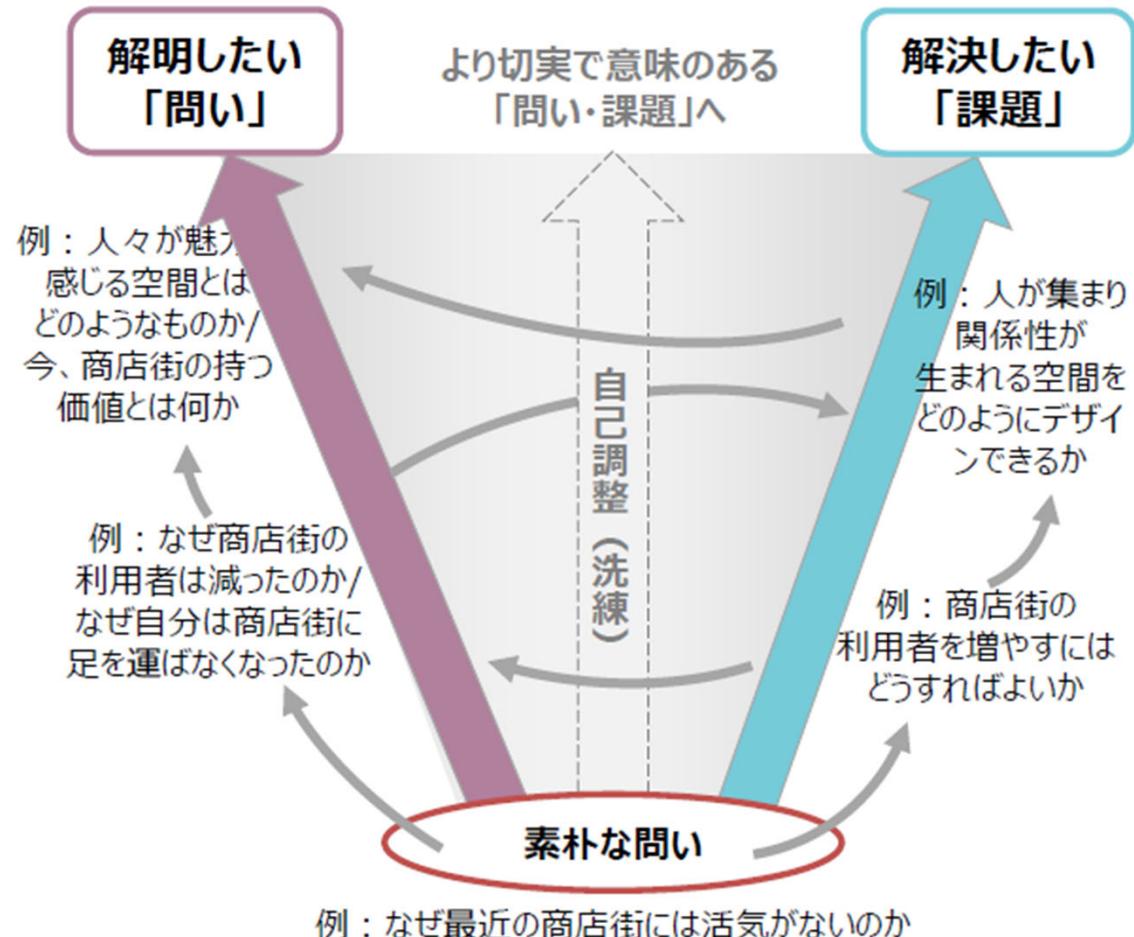
ミニ探究ユニット の創設(案)

『生活・総合WG（第2回）』（2025年11月10日）



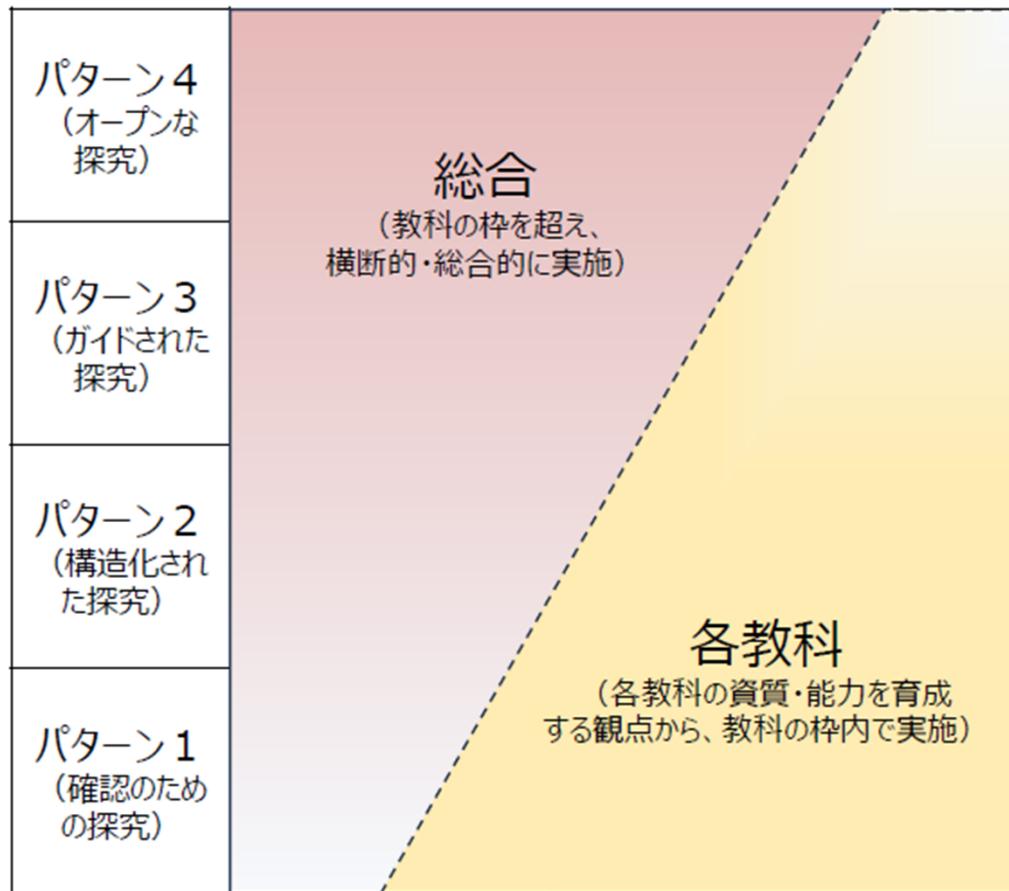
問い合わせと課題 の往還による課題の設定の仕方

『生活・総合WG（第3回）』（2025年12月26日）



学習者の裁量 によって深まる探究—各教科への拡充

『生活・総合WG（第3回）』（2025年12月26日）



總則・評価特別部会

状況の整理

- ・ 主体的・対話的で深い学び（現行学習指導要領）
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（令和の日本型学校教育答申 [2021年1月26日]）
 - サポートマガジン『みるみる』の発刊（2025.4）
 - 主体的・対話的で深い学びを基礎として、個別最適な学び等を位置付ける
 - 「個に応じた指導」へ

No333

文科省サポートマガジン『みるみる』が刊行！
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」
は全体一協働一個別のバランスの中で実現

そのように言ってくれば
実践は進みます！

溝上の解説:5つのポイント

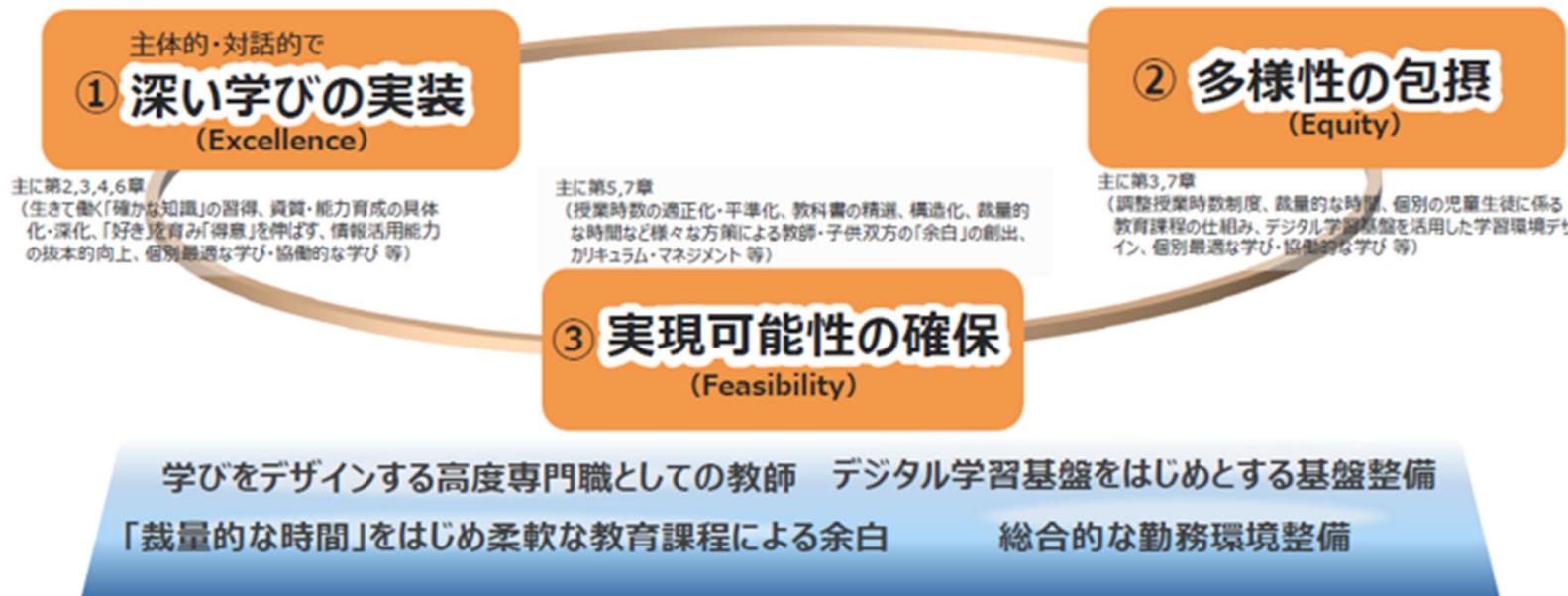
動画チャンネル「溝上慎一の教育論」



文部科学省

次期学習指導要領の基盤としての三位一体

『論点整理』（2025年9月25日）



多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

状況の整理

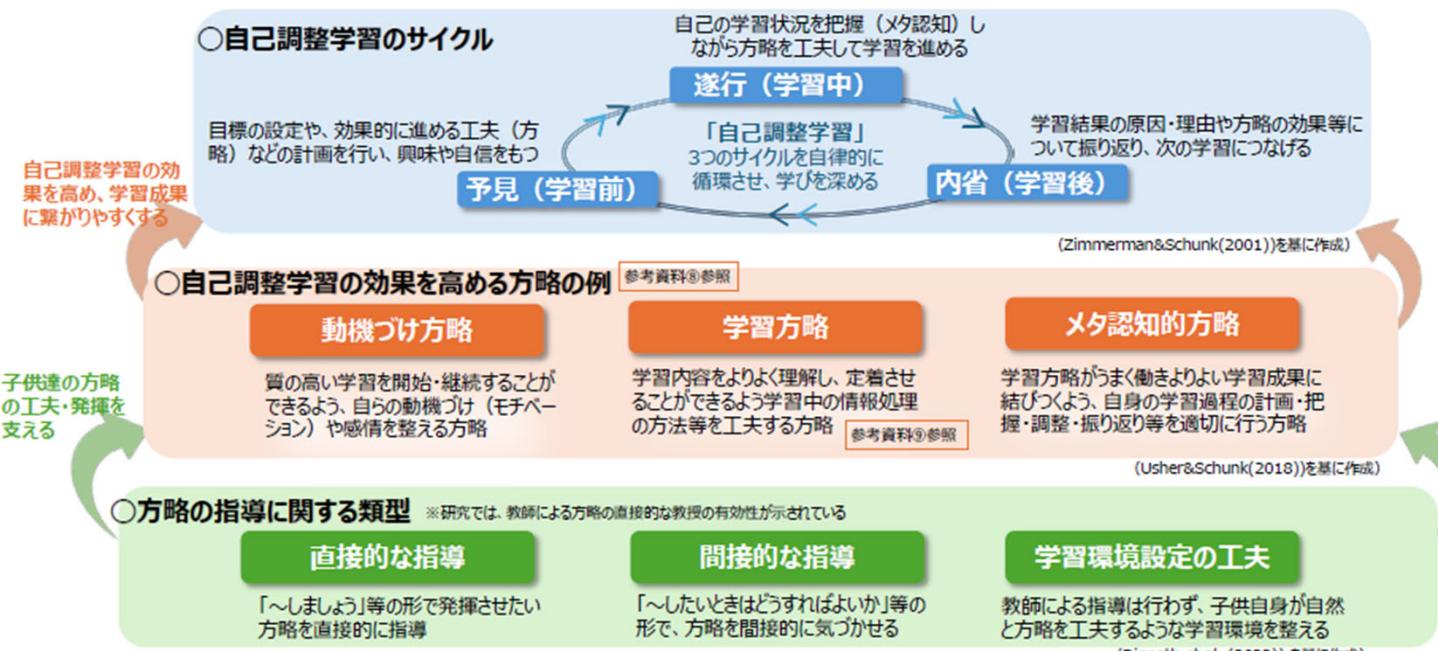
- 主体的・対話的で深い学び（現行学習指導要領）
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（令和の日本型学校教育答申 [2021年1月26日]）
 - サポートマガジン『みるみる』の発刊（2025.4）
 - 主体的・対話的で深い学びを基礎として、個別最適な学び等を位置付ける
 - 「個に応じた指導」へ
- 個別最適な学び：「指導の個別化」「**学習の個性化**」

個に応じた学習過程の充実（案）

『総則・評価特別部会（第3回）』（2025年12月15日）

◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

参考資料①



◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例

参考資料②参照

単元や題材の設計

- 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計
- 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化
- 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置

多様な学習材料の提供 足場かけの準備

- 子どもが自分の力で学ぶことができ、自らにとって学びやすいものを選択できる多様な材料の提供
- 子どもの特性や学習スタイルに応じて選択できる多様な学習材料の提供
- 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等

学習環境の整備

- 安心して学習に取り組める空間づくり
- デジタル学習基盤も活用しながら、生徒間や外部との協働を通じた学びの深まりや、生徒自身が学習に必要な情報に必要なタイミングでのアクセスを可能とする環境づくり 等

教師による自己調整学習の促進の例

参考資料②

(Dignath et al. (2022) "Assessing How Teachers Enhance Self-Regulated Learning Coding Guide"を基に作成)

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習課題の意義づけ・価値づけ

取り組む学習が、目標に照らして努力に見合う価値があると実感することで動機づけを高める

学習環境の調整

自身が学習に集中できるように学習環境を整える

他者との協働や支援の活用

友達に聞く、協働する、教師や保護者の支援を求めるなど、学習を進める上で必要な社会的リソースを整える

自己肯定感の維持

学習成果の要因を、変えられない又は外部的な要因（自らの遺伝的能力等）に求めず、自分で変えられる又は内部的な要因（学習方略等）で捉え、自己肯定感を支える

意思や注意のコントロール

学習に関係のない思考を抑え、学習の目標を達成するための活動に注意を振り向ける

学習方略

参考資料②参照

学習内容をよりよく理解し、定着するよう学習途中の情報処理の方法等を工夫する方略

反復方略

学習した内容が長期記憶として定着するまで、繰り返し学習できるようにする

精緻化方略

理由や意味を付け加えるなど、新たな学習内容を、既存の知識と関連付けて深く理解できるように工夫する

組織化方略

同じ点に着目して情報を整理する、内容を要約するなど、新たな学習内容の中で関連付けを行い、体系的に理解できるように工夫する

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

計画方略

学習活動に先んじて、学習過程の計画、目標設定、学習方略の選択等を行う

モニタリング方略

学習過程において理解度等を自分に確認することで、学習の進捗を確認する

評価方略

実際の学習活動終了後、学習の進捗を当初の学習目標と照らし合わせる

調整方略

学習目標を達成したか確認したあと、進捗状況に応じて自身の学習方略等を調整する

自己調整学習を促進する教師の関わりの類型

①直接的な方略指導

：教師が方略を意図的に指導することで、児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す

②間接的な方略指導

：教師は特定の方略を明示しないが、問いかけ等を通じて児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す

③学習環境設定の工夫

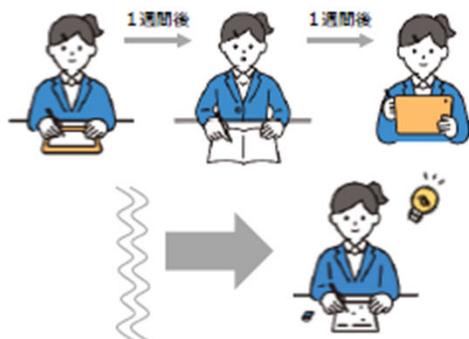
：児童生徒が自己調整学習を行う必要がある環境を設定し、児童生徒が自然と方略を工夫していくことを促す

認知心理学の知見に基づく効果的な学習方略の例

参考資料③

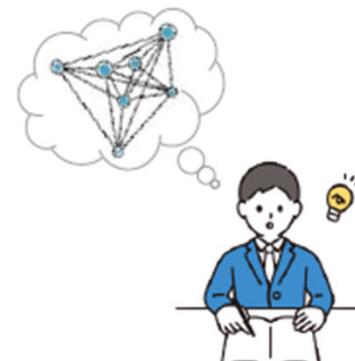
分散学習

時間の間隔を空けて復習することで、長期的に学習内容を定着しやすくなる



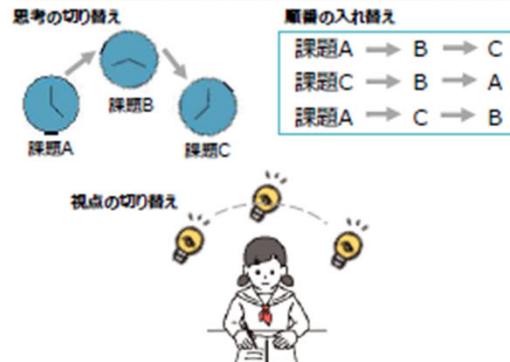
検索練習

学習内容を積極的に思い出す練習をする事で、記憶の定着と新しい状況での応用につながる



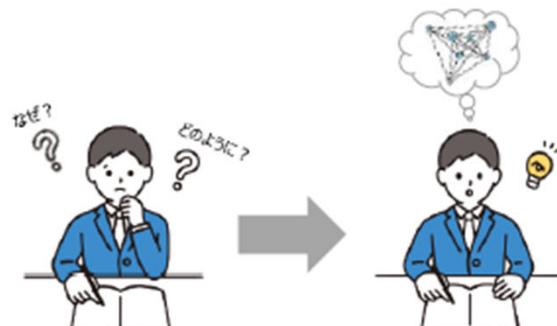
交互配置（インターリーブ）

同じような問題を解き続けるのではなく、トピックを切り替ながら学習する



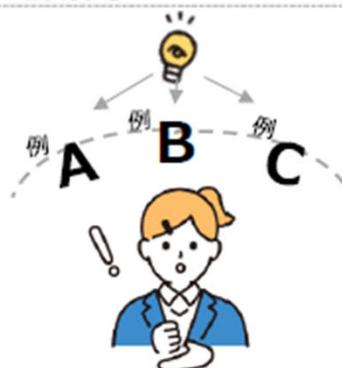
精緻化

理由や意味など、学習している内容に情報を加えて深く、多角的に理解する



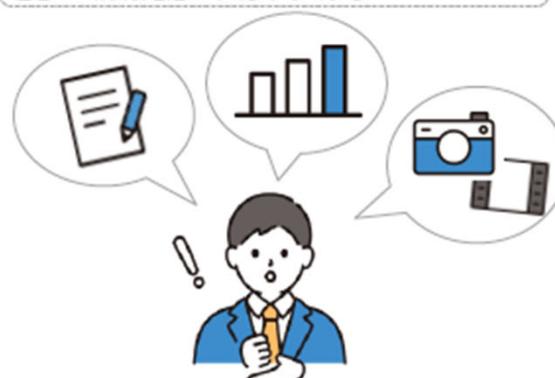
具体化

抽象的な概念を学習する際、具体的な例を用いて説明する



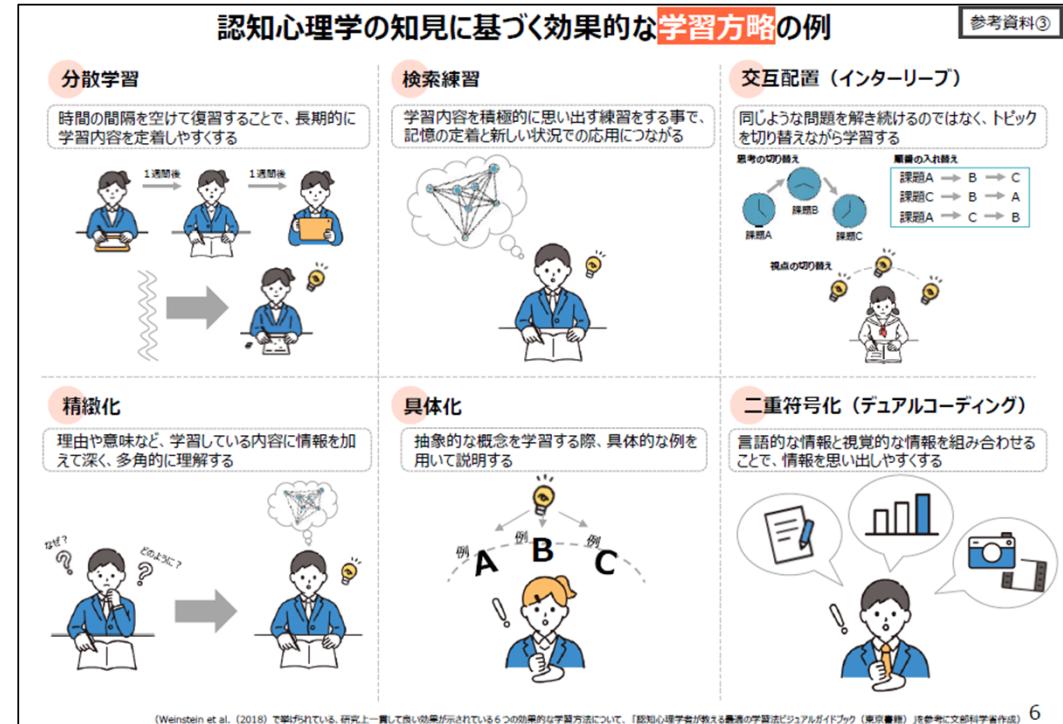
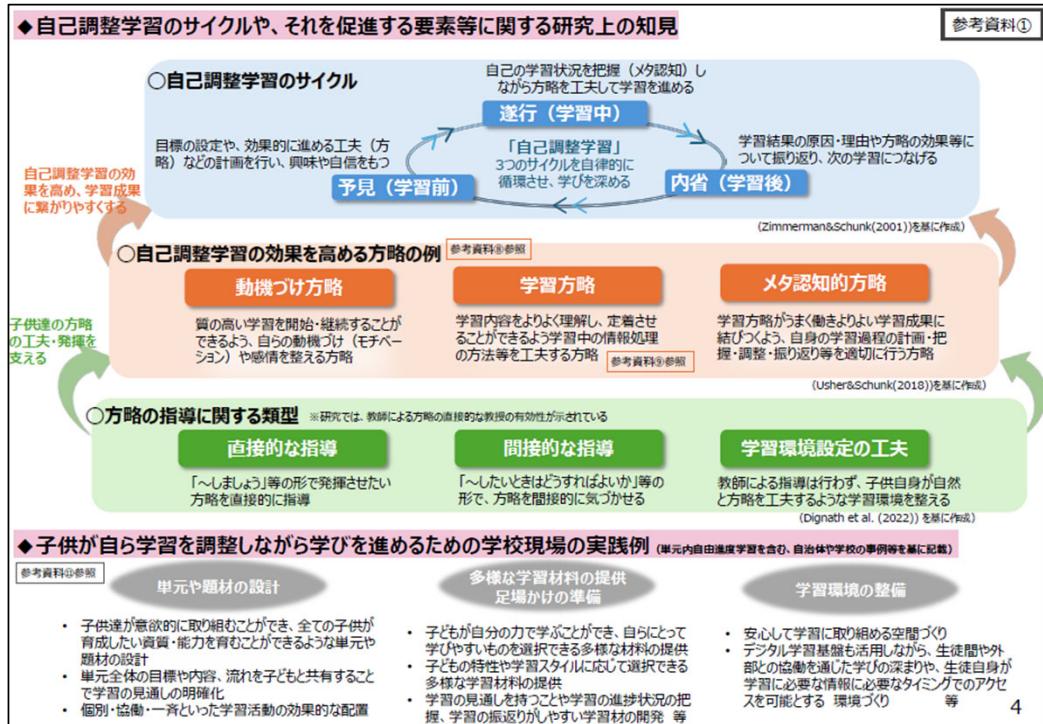
二重符号化（デュアルコーディング）

言語的な情報と視覚的な情報を組み合わせることで、情報を思い出しやすくなる



(Weinstein et al. (2018) で挙げられている、研究上一貫して良い効果が示されている6つの効果的な学習方法について、「認知心理学者が教える最適の学習法ビジュアルガイドブック（東京書籍）」を参考に文部科学省作成) 6

溝上の所感



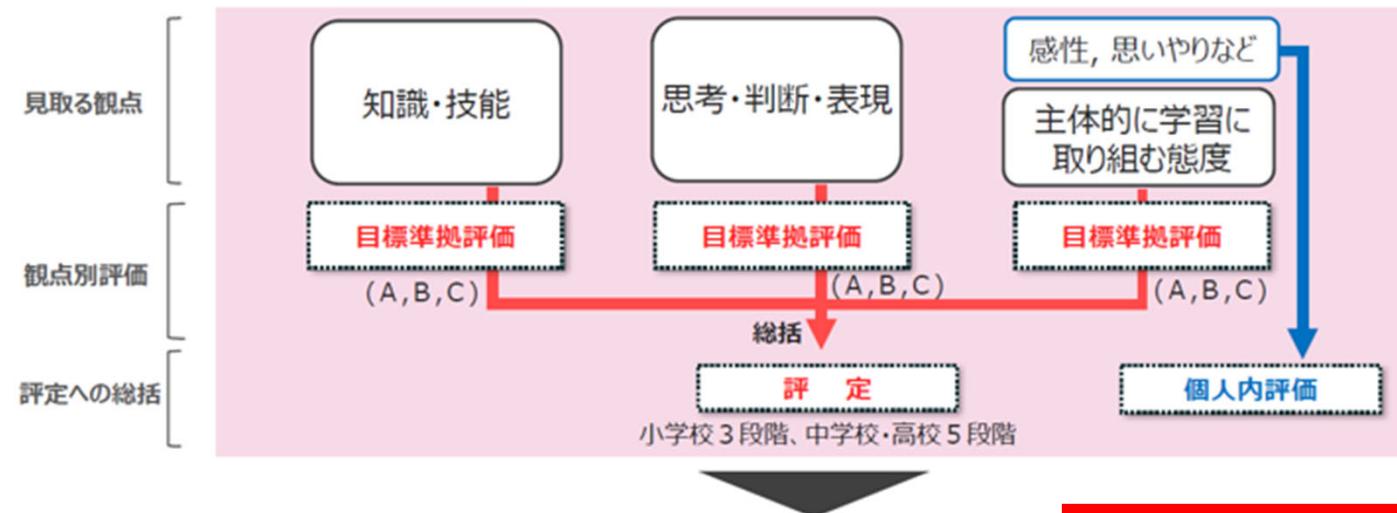
(近々掲載)

- ・『内外教育』>総合探究の「ミニ探究ユニット」「探究を教育課程の支柱的概念へ」
- ・『教育PRO』>総則評価部会の「自己調整学習・方略」の導入

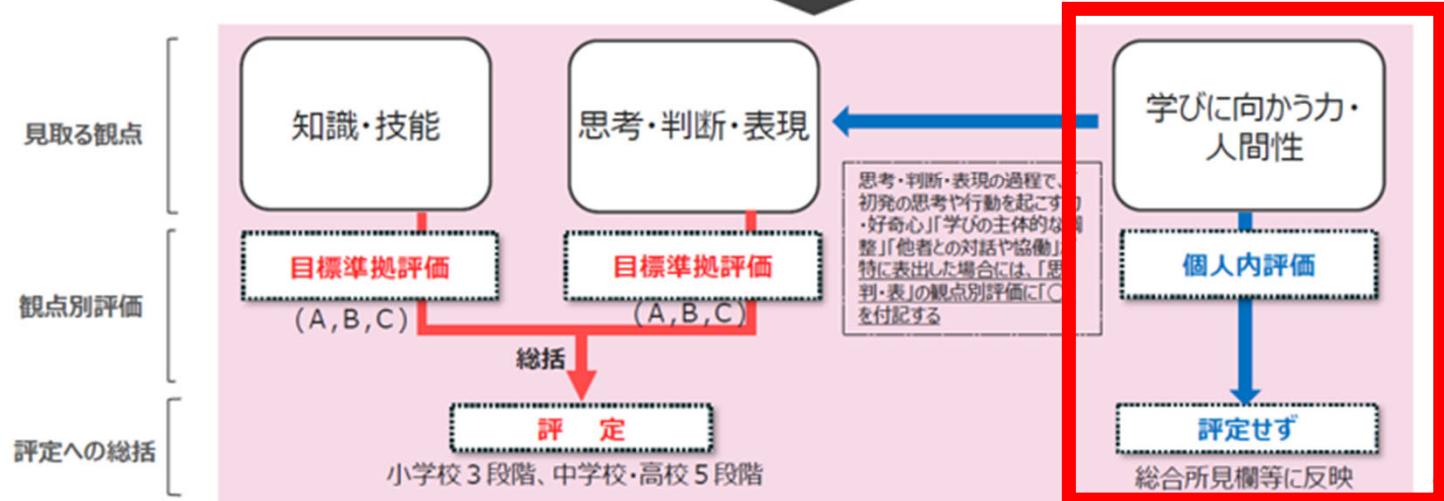
新たな観点別評価の方向性

『論点整理』（2025年9月25日）

旧

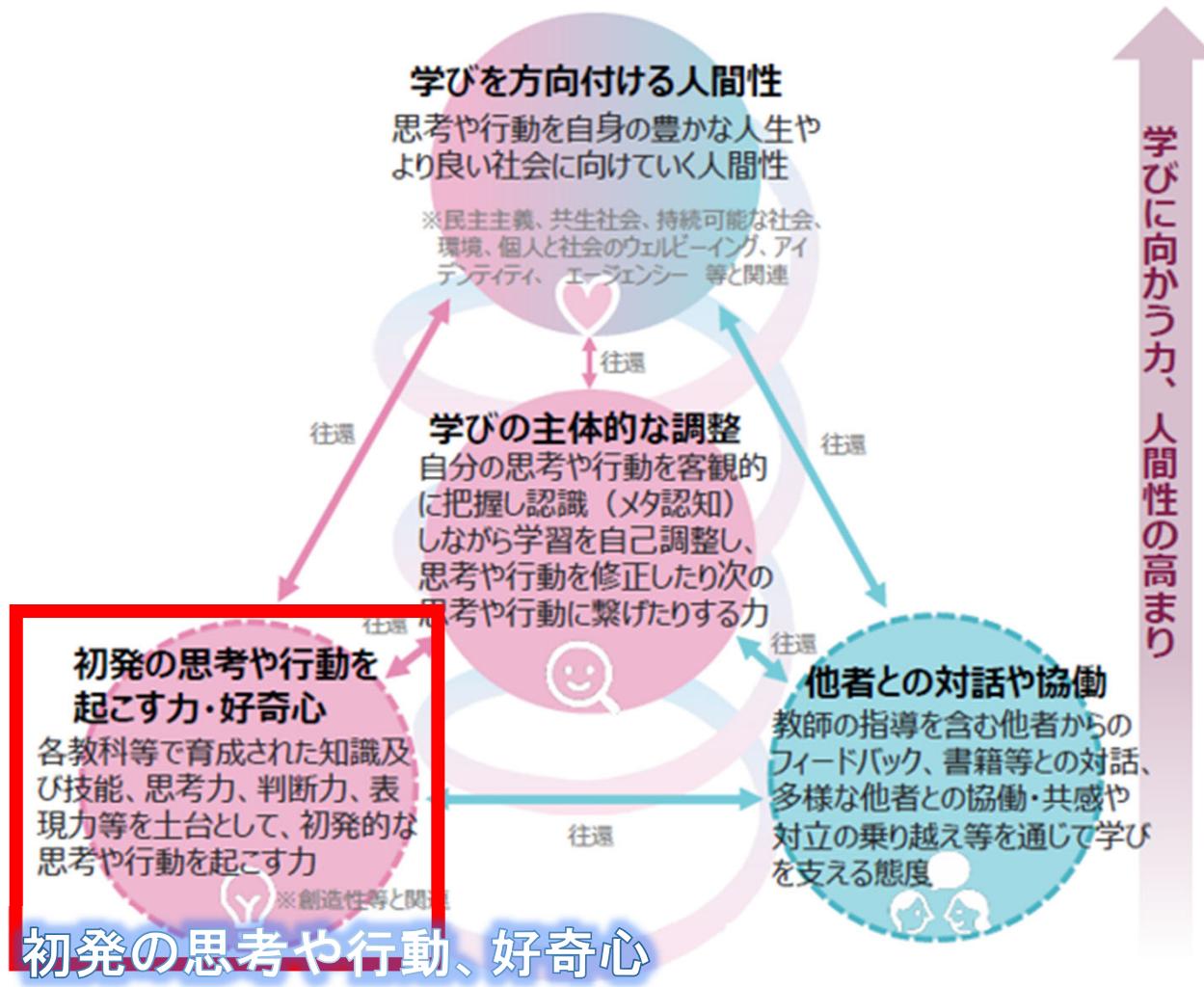


新



初発の思考や行動 >学びに向かう力、人間性等

『論点整理』 (2025年9月25日)



ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてくださると、回答の助けになります。

なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

